

地下鉄短信 (第304号) 平成29年8月7日発行

編集 (一社)日本地下鉄協会 責任者 向田正博

電話 03-5577-5182(代) FAX 03-5577-5187

**記事 ○「地下鉄施設の保守、維持等に関する研究会」(第5回電力部会)を開催****○「地下鉄施設の保守、維持等に関する研究会」(第5回電力部会)を開催しました。**

去る8月3日(木)の14時から、当協会会議室において、地下鉄施設の保守、維持等に関する研究会「第5回電力部会」を開催しました。この電力部会には、9地下鉄事業者から電力設備の保守管理に携わる実務者12名及び(公財)鉄道総合技術研究所から2名、当局3名の計17名が参加しました。

電力部会では、省エネルギー化、停電発生時の列車非常走行を目的として、変電所内に設置する「電力貯蔵装置」をテーマに仕様や機器構成、運用方法等について研究していますが、今回の第5回電力部会では、「電力貯蔵装置の国際規格化と今後の動向」について鉄道総研き電研究室の小西主任研究員から講演していただきました。

電力貯蔵装置の国際規格(IEC62924)は2017年1月に発行され、地上に設置される電力貯蔵システムに特有な項目(評価・調査・設計・性能評定・試験)を規定しています。

本講演では、電力貯蔵装置(ESS)の基本構成、用語の定義、負荷サイクルの例、容量の決定、性能上の要求事項、試験方法、シミュレーション及び現地での測定について研究させていただきました。



小西主任研究員の講演

次に、既に電力貯蔵装置を設置している地下鉄事業者が実施した工場検査、現地試験及び性能試験の内容及び保守メンテ内容等について発表していただき、設置時の試験・検査内容では、本国際規格に規定した要求事項との内容の相違及び課題となる蓄電池の寿命の判断について、また、電力貯蔵装置の保守メンテでは、日常検査の周期、内容及び司令所等の電力管理システムで監視する項目について、鉄道総研からのアドバイスも得ながら熱心に議論しました。

また、現行の電力部会のテーマである「電力貯蔵装置」に続く、新たな研究テーマの抽出では、大阪市交通局から提案された「LED照明器具への更新における器具の選定方法」及び名古屋交通局が提案する「接地極の接地抵抗値が基準値を上回った場合の対応」について、提案の趣旨及び他の地下鉄事業者での対応について発表し、第5回電力部会を閉会しました。



第5回電力部会風景

(注) 必要に応じ、社内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせ下さい。

本短信について、ご意見をお寄せ下さい。

連絡先: mukaida@jametro.or.jp